長野県希少野生動植物保護回復事業計画（クビワコウモリ）（案）に対するご意見と県の考え方

意見募集期間： 令和元年 12 月 25 日（水）～令和２年１月 31 日（金）まで

意見の総数　： 10 件（５人）

No	該当項目	お寄せいただいたご意見等（要旨）	県の考え方
1	1 ｸﾋﾞﾜｺｳﾓﾘの概要	乗鞍高原での個体数の減少について、推測として２点が挙げられているが、その他の要因も色々と考えられる。	クビワコウモリの減少要因については様々な可能性が考えられますが、詳細については不明です。頂いた意見については、クビワコウモリの減少要因と保全対策を検討していく上で参考にさせていただきます。
2	2 ｸﾋﾞﾜｺｳﾓﾘの現状	既知の論文で尾瀬山系での捕獲記録があるため補記願いたい。	ご指摘いただいた内容を追記しました。
3	3 課題	情報収集、調査についても、地元の方々と一緒に行なうことが大変重要であると考える。クビワコウモリについて関心の少ない方に理解を深めてもらえるよう生息地域での説明会や相談会などを実施してはいかがか。 地域の自然を守るには、どうしても地域の人の力が必要なため、その点に特に力を注いでいただきたい。	ご意見のとおり、県としても地域の方々の理解が重要と考えており、生息地域におけるご理解や関係者の協力体制の構築に努めていきます。 ご意見を踏まえ、記述を修正しました。
4	4 事業の目標	広報や報道によって若い世代や県外の人も含めた幅広い人々にクビワコウモリに対する興味関心を持ってもらうことが重要。 また、長野県の自然環境の豊かさを保全することに資するため、看板の解説文だけでは実感できない希少種の実態を体験できるエコツアーのようなものを継続実施できないか。	保護回復事業計画に係る情報発信については、今後、県において関係機関と連携して積極的に行なっていきます。 また、乗鞍自然保護センターでクビワコウモリの生態についての展示と観察会を実施していますが、県としても一層の啓発・普及に努めていきます。
5	5 事業の区域	事業の区域を「長野県内のクビワコウモリの生息地とする」と記載していますが、本計画内容は乗鞍地域のみです。長野県内の他の生息地についての計画については触れていませんが、一地域のみを保護するのではなく、地域個体群ごとの保護の考え方を取り入れ、各地域個体群の現状や課題に見合った計画を策定すべきだと思います。	乗鞍高原以外の地域では、極少数の個体が確認されているだけで、生息地や地域個体群として確認できる知見が得られていません。このため本計画では、コロニーが唯一確認されている乗鞍高原について主に記載していますが、他に生息が確認された場合においても保全体制の構築を図っていきます。 ご意見を踏まえ、記述を修正しました。

6	6 今後の取組	生態の多くに残された不明の部分について、今後の情報収集とモニタリングで具体的にどの様に解明していくのか。	クビワコウモリの生態は不明な点が多く、研究も進んでいない状況のため、地域や関係機関及び研究者と連携しながら今後の情報収集とモニタリングに取り組んでいきます。 ご意見を踏まえ、記述を修正しました。
7	6 今後の取組	保護団体・県が中心となって活動支援と普及啓発に取組むと全般論として示されているが 、専従の研究者によるフィールドでの観察、新しい技術や資材を使った追跡調査、人工飼育下での観察・分析等、今まで以上に多くの時間を生態研究に投入し、情報収集・モニタリング調査することが急務ではないか。	地域や関係機関及び研究者と連携しながら今後の情報収集とモニタリングに取り組んでいきます。 ご意見を踏まえ、記述を修正しました。
8	6 今後の取組	具体的には、人との共存をすすめる為にバットボックスの設置を挙げているが、クビワコウモリが人間の住居を利用する以前 から樹洞で生活していたのであれば、バットボックスが 個体数回復の切り札となり得るかの確証はあるのか。	バットボックスは、他種の樹洞性コウモリの保全対策でも営巣の実績があり、また、家屋内への営巣を避けるうえでも有効な方法の一つと考えています。
9	7 ｽｹｼﾞｭｰﾙ	スケジュールとして概ね 10 年で、安定的な繁殖場所の確保に向け対策方法の確立等、この事業の効果を評価検証と見直しをする…とあるが、2002 年のピーク以降、緩やかに減少傾向が続いている現状では、10 年も掛けている時間はあるのか。	保護回復事業計画の検証・評価、見直しは、取組みの進捗状況を踏まえたうえで、10 年という期間にとらわれず新たな知見、生息数の変化など生息状況の大きな変化があった場合にも行うこととしています。
10	全般	乗鞍高原のクビワコウモリを保全することは大変大切な事業と考える。 しかし、新型コロナウィルス肺炎の原因の一つに野生のコウモリが市場で売買されていたからではないかという情報を聞くと、クビワコウモリがウィルスを持っていないのか、たいへん心配である。 人の住む家屋で営巣をすることで危険がないかどうか、しっかり調べたうえで、人との共存を図るべきだと思う。	一般的に、コウモリと人との人獣共通感染症は、いくつかの種で確認されています。このため、クビワコウモリと人との共存方法を確立する方法の一つとして、本計画ではバットボックスを用いることで、クビワコウモリが家屋の中ではなく外側で営巣することを目指していきます。